

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日:令和2年3月23日

公表:令和2年3月31日

事業所名 ぽっぽ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3		スタッフの配置に関しては3~4名の配置を行っている	事業所の入り口・トイレに関しては改善の必要性が感じられる。改善について行っていく。スタッフの配置に関しては今後も適切に配置を行っていく
	2	職員の配置数は適切である	1	2		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	2		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3		毎朝の朝礼と月1回の研修会を行っている	保護者様の意向や情報共有し業務改善に努めていく。職員の資質向上の為、毎月の研修会を外部から講師を招くなど第三者による評価を行って頂く。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	1		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3			
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	2		個人活動のみだけではなく、集団活動を取り入れ始めている。また外出の機会等を増やせるように企画を行っている。朝礼時に前日の振り返りを行い児童の様子等について確認を行っている。就労学習では月ごとに課題があり様々なプログラムを取り入れている	今後もサービス提供内容に関して、継続的に検討を行いよりよいサービス内容を提供できるように取り組んでいく。またその為にスタッフ同士の意見交換等の機会をより多くできるように業務の改善を行っていく。就労移行のスタッフと協力し就労に向けた企業見学など取り入れて行きたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	2			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2			
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	2	1		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	2	1		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	1	1			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2		相談支援事業所の担当者会議や関係機関の会議へ参加を行っている。また新しく利用される児童に関しては相談支援事業所の方から情報をいただいている。研修についてもスタッフの派遣を行っている	保護者や相談支援事業所から児童の情報を得ることは行っているが、サービス提供事業所との連携についてはなかなか取ることができていなかった為、今後受け入れが決まった時点で事業所側から連絡を入れ、連携を取れるようにしていくことを確認。また児童クラブや児童館との関わりについては現状行っていない。今後検討を行っていくが、行う場合に関しては保護者の同意を得ることとする
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	2			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	1		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	1		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	1		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		3		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		2		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3			
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	1	個人情報についてはスタッフには入社時、退職時に誓約書をいただいている。活動報告に関してブログの更新を行っている。送迎時・面談時等で不明点や悩み事を共通認識し信頼関係づくりを行っている	事業所での行事等を行っていないが、市内の行事等には参加をしたり、スタッフの派遣を行っているが、今後検討を行っていく。保護者会に関しては保護者の方の必要性について今回確認を行った。保護者同士の関わりについて保護者会以外で行えるよう検討を行っていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	2	1		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		2		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2			
	35	個人情報に十分注意している	3			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	1		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	1	2	<p>虐待防止については定期的に研修を行っている。またヒヤリハットを活用することで事故等を防げるように心がけている。防犯マニュアルを今期改定をし防犯強化に努めている。</p> <p>マニュアル等について周知徹底を次回の会議で議題として取り上げていく。身体拘束に関しては別紙で同意書を用意している。判断基準や手順に関しては会議で共通認識を行っていく。虐待防止の研修やヒヤリハットの活用に関しては行えている為、今後も継続していくことで安全、安心な事業所を目指していく。</p>
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	1	1	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	2		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1	1	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	1	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3		